

## 2026年度自己推薦選抜（出題の意図・評価のポイント）

## ■総合型選抜

学部学科専攻		小論文	面接口試
		出題傾向と評価ポイントについて	面接・口頭試問の面接形態、面接の評価ポイント
仏教学部		小論文の論題は、宗教（仏教）と社会・文化との関わりについて問う傾向にあります。それも宗教（仏教）の専門的な知識を問うことに力点があるのではなく、社会・文化に関する高校生としての常識的な知識を問うことに力点があります。評価のポイントは、高校生としての知識が身につけているか、考えて判断する力があるか、文章が整っているかという点です。	仏教学部の専任教員が2人1組で面接を担当します。面接官は、入学後に受験生が真剣に学習・研究に取り組むかどうか注目しています。なぜ仏教学部を志望したのか、入学後の目標はどのようなものか、特に仏教についての知識を深めたい理由と、現時点での自分の興味や関心について詳しく述べ、仏教学部で何をどのように学びたいかを明確に答えられるよう準備しておいてください。
文学部	国文学科	日本の文化・文芸に関する事項について、項目（テーマ）もしくは文章を与え、その内容の理解を前提に、自己の意見を記させます。それと共に、文学史・文法などの、当然身につけておくべき基礎的な知識を問います。与えられた項目（テーマ）・文章に対する理解力や旺盛な問題意識、国語学・国文学・漢文学に関する基礎的な知識、さらに文章の構成力、表現能力などを評価のポイントとします。	個人面接形式で複数の面接担当者が、国語や国文学に関する基礎的な知識を問います。また、高校における学習・生活状況および大学で学びたい内容について尋ねます。
	英米文学科	小論文では英文を読み、それに関する自分の意見を700～800文字程度の日本語で書いてもらいます。英文の読解力と日本語の表現力を評価します。英文の内容をよく理解したうえで、必要に応じてその英文の具体的個所に言及しながら、英文の内容に関連した文章を書いてもらいます。	まず、短い英文を音読してもらいます。そこでは単語の発音、区切りのしかた、流暢さなどを評価します。次に、その英文の内容について英語で質問し、リスニング力、英文理解を評価します。
	地理学科 地域文化研究専攻	小論文では、しばしば地図（地形図）や統計図表などを読み取ることにより、事象の空間的な特徴（分布や立地など）を把握し、その理由を地域や環境の諸条件とからめて、論理的に説明する力が問われます。評価としては、まず事象の空間的な特徴が正確に記述できているかがポイントになります。さらに、その理由を、さまざまな観点からの確に説明できているかを評価します。	面接は個人面接です。受験生1人に対し、複数の教員で面接を行います。時間は10～15分程度。面接では、駒澤大学地理学科で学びたいこととその理由について、これまでの自身の経験をもとに、具体的に説明できるか、こちらからの質問に対して的確に回答できるかなどを総合的に評価します。
	地理学科 地域環境研究専攻	小論文では、しばしば地図（地形図）や統計図表などを読み取ることにより、事象の空間的な特徴（分布や立地など）を把握し、その理由を地域や環境の諸条件とからめて、論理的に説明する力が問われます。評価としては、まず事象の空間的な特徴が正確に記述できているかがポイントになります。さらに、その理由を、さまざまな観点からの確に説明できているかを評価します。	面接は個人面接です。受験生1人に対し、複数の教員で面接を行います。時間は10～15分程度。面接では、駒澤大学地理学科で学びたいこととその理由について、これまでの自身の経験をもとに、具体的に説明できるか、こちらからの質問に対して的確に回答できるかなどを総合的に評価します。
	歴史学科 日本史学専攻	日本史・外国史・考古学の受験者が共通に回答できるような問題が出題されます。具体的には、設問にある史資料を読んで、それを基に論述してもらいます。 B4版の解答用紙に解答を記述してもらいます。字数制限はありません。解答が長くなる場合は、裏面も使います。小論文によって歴史的なモノの見方ないし洞察力・問題意識・論理的に論述する力を判定します。また、歴史に関する知識量を問う訳ではありませんが、正確な知識は必要です。評価のポイントは、A) 史資料を基に論じられているか否か、B) 論旨に矛盾がなく一貫性があるか否か、C) 正確な事実関係に基づき論述されているか否か、D) 文法表現に誤りがないか否か、E) 丁寧に清書されているか否か、F) 論旨に独自性・斬新性があるか否か、などです。	受験生1人に対して、2～3人の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味・関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読了した歴史学・考古学に関する書物、これまでに訪れた史跡・博物館の内容と感想、C) 専任教員の研究についての理解、D) 歴史学・考古学の研究方法についての理解、E) 卒業後の進路、もしくは専門職（教員、学芸員など）についての理解、などです。評価のポイントは、そつのない上手な受け答えではなく、自分の個性・独自性を、臨機応変に、自分の言葉できちんと主張できるかどうかにあります。
歴史学科 外国史学専攻	日本史・外国史・考古学の受験者が共通に回答できるような問題が出題されます。具体的には、設問にある史資料を読んで、それを基に論述してもらいます。 B4版の解答用紙に解答を記述してもらいます。字数制限はありません。解答が長くなる場合は、裏面も使います。小論文によって歴史的なモノの見方ないし洞察力・問題意識・論理的に論述する力を判定します。また、歴史に関する知識量を問う訳ではありませんが、正確な知識は必要です。評価のポイントは、A) 史資料を基に論じられているか否か、B) 論旨に矛盾がなく一貫性があるか否か、C) 正確な事実関係に基づき論述されているか否か、D) 文法表現に誤りがないか否か、E) 丁寧に清書されているか否か、F) 論旨に独自性・斬新性があるか否か、などです。	受験生1人に対して、2～3人の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読了した歴史学・考古学に関する書物、これまでに訪れた史跡・博物館の内容と感想、C) 専任教員の研究についての理解、D) 歴史学・考古学の研究方法についての理解、E) 卒業後の進路、もしくは専門職（教員、学芸員など）についての理解、などです。 評価のポイントは、そつのない上手な受け答えではなく、自分の個性・独自性を、臨機応変に、自分の言葉できちんと主張できるかどうかにあります。	

文学部	歴史学科 考古学専攻	日本史・外国史・考古学の受験者が共通に回答できるような問題が出題されます。具体的には、設問にある史資料を読んで、それを基に論述してもらいます。 B4版の解答用紙に解答を記述してもらいます。字数制限はありません。解答が長くなる場合は、裏面も使います。小論文によって歴史的なモノの見方ないし洞察力・問題意識・論理的に論述する力を判定します。また、歴史に関する知識量を問う訳ではありませんが、正確な知識は必要です。評価のポイントは、A) 史資料を基に論じられているか否か、B) 論旨に矛盾がなく一貫性があるか否か、C) 正確な事実関係に基づき論述されているか否か、D) 文法表現に誤りがないか否か、E) 丁寧に清書されているか否か、F) 論旨に独自性・斬新性があるか否か、などです。	受験生1人に対して、2～3人の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読了した歴史学・考古学に関する書物、これまでに訪れた史跡・博物館の内容と感想、C) 専任教員の研究についての理解、D) 歴史学・考古学の研究方法についての理解、E) 卒業後の進路、もしくは専門職(教員、学芸員など)についての理解、などです。評価のポイントは、そつのない上手な受け答えではなく、自分の個性・独自性を、臨機応変に、自分の言葉できちんと主張できるかどうかにあります。
	社会学科 社会学専攻	身近な社会現象や国内外の社会問題について、その基礎的理解力と分析力、論理的思考力を問います。 小論文執筆にあたっては、問われていることを正確に把握したうえで自分自身の考えを論理的に、かつ、わかりやすく正確に文章にできるかが評価のポイントです。学術的な文章や評論を題材として読解力や図表を読み解く力が考査の対象となることもあります。この場合は、文章の理解力とともに資料やデータを的確にとらえる力や自分自身の意見を論理立てて説明できるかが問われます。なお、字数は合計で800～1200字程度です。	面接は、5名から7名が一組となってグループ討論方式で行います。資料を読んだ後に行う討論では文章の理解度を問うほか、発言における着眼点や積極性、論理性、説得力などが評価のポイントです。コミュニケーション能力や社会的事象への関心度、社会への洞察力が問われます。
	社会学科 社会福祉学専攻	国内外で話題になっているような福祉に関連する諸問題に関する設問を通して、問題の基礎的理解、データ分析能力を問います。併せて、小論文により、論理的思考力と文章表現力を評価します(文字数制限あり)。	面接試験は個別面接により実施します。試験では、受験生の面接態度や学習意欲はもちろんのこと、福祉の諸問題に関する意見、大学での学習計画などを総合的に評価します。
	心理学科	人間の心理や行動を理解するための基礎的知識と科学的態度があるかが問われることとなります。あわせて、文章や図表の読解力があるかも評価ポイントとなります。	個別面接により実施します。どのような質問に対しても、臨機応変に自分の意見を明確に述べることができるかどうかを重視します。
経済学部	経済学科	小論文では、経済・社会の問題に関する基礎知識や問題意識を問います。新聞の社説などを題材とする出題文を読み、関連する設問に所定の文字数内で解答してもらいます。経済・社会問題に関する基礎知識はもちろんのこと、出題文を正確に読み取る文章読解力、問題を論理的に考える思考力、自分の考えを的確に表現する文章説明力などを評価します。また漢字表記の誤り等、誤字・脱字は減点対象となります。	面接は複数の教員による個別面接です。高校での学修内容はもちろん、経済学科で学びたいこと、卒業後の進路などが質問されます。高校生として関心を持っている経済・社会の出来事は何か、その関心を経済学科での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを教えてください。明朗な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
	商学科	小論文では、現代の経済問題・社会問題について、基本的な知識を持っているか、それらに対して受験生自信がどのような考えを持っているか、またそれらを適切に文章で表現することができているか、を問います。新聞の社説などが題材となります。評価のポイントは、問題となっている文章の読解力ならびに文章作成における論理的記述力です(答案には字数制限あり)。漢字表記の誤り等、誤字・脱字は減点対象となります。	面接は複数の教員による個別面接です。高校での基礎的な知識はもちろん、大学で勉強したいこと、卒業後の進路希望などが質問されます。高校生として関心を持っている社会の出来事は何か、その関心を大学での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを教えてください。明朗な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
	現代応用経済学科	小論文では、題材として新聞の社説などを取り上げながら、現代の経済問題・社会問題について基本的な知識を持っているか、またこの基本的知識を踏まえながらそれら諸問題に関してどのように考えているかを問います。評価のポイントは、問題となっている文章の読解力ならびに文章作成時における論理的記述力であり(答案には字数制限あり)、同時にまた漢字表記の誤り等の誤字・脱字は減点対象となります。	面接は複数の教員による個別面接です。高校での基礎的な知識はもちろん、大学で勉強したいこと、卒業後の進路希望などが質問されます。高校生として関心を持っている社会の出来事は何か、その関心を大学での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを教えてください。明確な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
法学部	法律学科 フレックスA	現代の社会問題は法律や政治が大きくかわります。小論文の出題は、現在の社会で起こっている様々なことがらを示した新聞記事等から、主体的に問題を発見し、分析・検討することができる能力を見ることにあります。評価のポイントは、高校生レベルの時事問題に関する知識が身につけているか、文章の表現力や論理性が整っているかです。誤字・脱字などは減点対象になります。	面接は2人の担当教員が、2人の受験生に交互に質問する方式で実施し、1グループにつき15分程度を予定しています。評価のポイントは、駒澤大学法学部で学ぶことを志望する理由、高校における学習・生活状況に関する自己評価、社会に対する関心を踏まえた大学での学びへの意欲などの質問に対して、自分の言葉で面接担当教員とコミュニケーションを取る能力についての総合評価です。
	法律学科 フレックスB	現代の社会問題は法律や政治が大きくかわります。小論文の出題は、現在の社会で起こっている様々なことがらを示した新聞記事等から、主体的に問題を発見し、分析・検討することができる能力を見ることにあります。評価のポイントは、高校生レベルの時事問題に関する知識が身につけているか、文章の表現力や論理性が整っているかです。誤字・脱字などは減点対象になります。	面接は2人の担当教員が、2人の受験生に交互に質問する方式で実施し、1グループにつき15分程度を予定しています。評価のポイントは、駒澤大学法学部で学ぶことを志望する理由、高校における学習・生活状況に関する自己評価、社会に対する関心を踏まえた大学での学びへの意欲などの質問に対して、自分の言葉で面接担当教員とコミュニケーションを取る能力についての総合評価です。
	政治学科	現代における政治・法・社会問題について出題されます。社会に関して、若者らしい問題意識を常に持ち続けてください。その上で、自身の見解や意見を文章にまとめると良いでしょう。文章は論理的で、自分の考えが明確に表現されているかどうか重要です。	面接はグループ討論方式で実施します。5～7名1組となり、当日示されたテーマ(新聞記事等)について議論してもらいます。積極的な発言はもちろん、その中でも分析力・論理性・判断力などを評価ポイントとします。

経営学部	経営学科	現在の経済・経営の諸問題に対する考えを問う問題や、大学入学に必要な考え方・理解力・読解力を問うような問題が出題されます。評価のポイントは、①問われている問題に対して自分なりの意見をきちんと述べているか（主張の明確性）、②その意見をサポートする根拠について筋道を立てて説明しているか（論理性）、③正しい日本語で表現されているかどうか（表現力）の3つです。	原則として、受験生1名に対して面接担当者2名という形式で面接をおこないます。評価のポイントは、経営学部で学びたいことが明確であるかどうか、経営や経済の諸問題について問題意識や意見を持っているかどうか、勉学に対する態度が真摯であるかどうか、円滑なコミュニケーションをとることが可能かどうか、などです。
	市場戦略学科	現在の経済・経営の諸問題に対する考えを問う問題や、大学入学に必要な考え方・理解力・読解力を問うような問題が出題されます。評価のポイントは、①問われている問題に対して自分なりの意見をきちんと述べているか（主張の明確性）、②その意見をサポートする根拠について筋道を立てて説明しているか（論理性）、③正しい日本語で表現されているかどうか（表現力）の3つです。	原則として、受験生1名に対して面接担当者2名という形式で面接をおこないます。評価のポイントは、経営学部で学びたいことが明確であるかどうか、経営や経済の諸問題について問題意識や意見を持っているかどうか、勉学に対する態度が真摯であるかどうか、円滑なコミュニケーションをとることが可能かどうか、などです。
医療健康科学部	診療放射線技術科学科	医療健康科学部における筆記試験の出題範囲は数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B）、物理基礎、化学基礎となります。本学科は医療系の中でも理工学的色彩が強く、高校における数学、物理、化学の素養が欠かせません。したがって、筆記試験では上記出題範囲に関する問題が出題され、数学的・科学的な思考に基づいた知識や解決能力を評価します。 筆記試験サンプル問題 <a href="https://komazawa-u.backshelf.jp/bookview/?fileseq=4918">https://komazawa-u.backshelf.jp/bookview/?fileseq=4918</a>	本学を志望する理由、クラブ活動、趣味、最近関心を持った科学的話題、更には一般教養や医療に関する知識等が問われます。本学を志望する自分の気持ち、クラブ活動等、高校時代力を入れた事やそこから学んだ事を整理し、わかりやすく伝える事が重要です。また、常に重要なトピックスやニュースに目を向け、関連する新聞記事や本などを読んでおくこと役立つでしょう。
グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	経済・社会のグローバル化によってもたらされるさまざまな問題について、高校生にふさわしい基礎的知識と問題意識を問うものであり、簡単な資料(日本語または英語)をもとに、自分の考え方を日本語で記述します。文字数の制限は設けていません。また、高等学校の特定の教科とは直接にかかわりません。論理的理解力、分析力、表現力などを総合的に評価します。評価のポイントは、キーワードの明確さ、主張の明快さ、主張を裏付ける根拠の妥当性などです。	面接は、個人面接で、複数の教員が担当します。面接は当学部の特徴を理解し、自らを磨いていこうとする意欲があるかどうか、コミュニケーションの能力があるかどうかなどを確認することを主眼とします。英語での質疑を伴う場合もあります。